



正徳六^丙申曆

試毫

尾洲名古屋



鶉比羽ふけ初日ひまろく山鹿

巴雀

萩^{ナガサキ}の余波^{ナガサキ}くすむ磯馴樹

東籬

青さあはに詩乃贈答餞別よ

試中

中村俊定文庫

文庫 18

168

天兒ツカッの善兒シビよけいけり

順應

東風トウフウの吹くは房フウ古百

草クサの生ナつは一日イツニチの生ナえて 三徑

清スガくもや林リンの里サトれ難ナ黄ワウ乃ノ具ク

伽竹

秋アキ袖スベのノお三隣サンリンの人ノ 千石

白魚シロイサナの目メを阮籍ワニキョクのけいけいケイケイ 鼻行

言音

急イサすくくボウく眉メイ乃ノ鞠キックくめ

灯トウの根ネ并ナ埋ウま 薰カウ 三支

鴛鴦ウヰンウヰン乃ノ人ヒトとすさめぬ春ハルれ月ツキ小コ 常久

三徑

春ハル早ハヤく東風トウフウのノもろけ源ゲン太夫

年トシおオくくろく馬士ウマシのノ糸イトき初ハジメ 文菊

狼オウ乃ノ玉タマの袖スベれあきくアキクに 風子

まゝの目也とて觸る山家くみ

風子

七世ふき継櫓乃大ぬく 巴雀

ふんじうが籠るすち路一概又 里川

賣初や比目乃牛乳車道

寅三

鬼一口く消る落味嚼 伽竹

起ゆの栞後園の砂掃て 三支

那古及ふ之つりて十八年男

琴糸

土戸こゆれと梅乃捨目垣 曾行

緋緞子の鳳巾は横ふ目紙榮く 巴雀

歌舞此地やゆれハきれ河急衣始

山朴

一本三名子炒のわく玉 寅三

赤甲紅赤用白とて埒造て 古音

就中香あり実れく心花乃甚

試中

玉くきへ君々若菜砂

三徑

物よるる廣濃乃氷間ニて

文菊

家如風福杏乃甚を咲き多り

東籬

弓場の花名 柳 三 李

里川

帰鷹人多素足よ房人

須應

若コニカリ及々りれ六十一美れく心

常久

射珠くく物と貝の太箸

試中

和とい子綿の倉町長用して

伽竹

はひきれ種やらりくのさる羽子

三交

御園く梅よ下駄の下前

風子

分張乃流ハ千鶴よ廣らりて

東籬

三編のふねらり門を伊勢と云はれ
千石

泉即れきく繩席種の泉井
順應

そそくは衣桁屏風よ鳥啼多
琴糸

門松より半面とそり紙園所
里川

笑ひ乃かそり文賣
常久

去の宵土橋よ表乃音りて
山朴

野よ餓葉なるとるけり初壽
曾行

若緑と松松り編村
山朴

齋司殿群ひ日けり
寅三

初子此日況半乃角り福
文菊

東風吹すさし鬘の一尺
琴糸

家檜香の判者と志中次
千石

歳尾

石とくくく虎の金う教師走哉 京 仙鶴

花ういふ餅乃らまらや上流う 日 珍舎

膝行ふ星もくや新く和布刈か 日 竹守

妻ハ垣木まうと年木融山 順應

和紙こめて羅縉の重衣と配々り 琴糸

青ううう糸 季い糸を三笠山 古音

佛名や鎌倉次郎奈良太布 寅三

芋賣了東寺此雪と掃き々り 黒川

除夜遊 宵の侍従を何故かの 三支

年浪のううや高浪乃様此尻 文菊

年の瀬をうう歌う利わり益本愛 東雛

人ううれ五條へ年の坂ゆえ 試中

欠もろく大已貴れくはり市 曾行

無言方子口やけけり年忘 千石

水くろく 必磁くろく 年口とれ 伽行

鶏ふくろく ねをおとろり 年の骨 常文

小夜風やねと年乃 津先 追 山朴

晴嵐やふとまき かしら 市 鳳

十二月 盡や 平砂よ 是乃 依 三徑

一昨年をわしの 席あり 余幸了

梅勇いこいふ 冬と 探ゆり 退く

自問とらふ 山ふか かしら 対紙

とらふと 海とん くれい ちのち 中平は

ひくわりと 武林乃 指さき さらさら 山は

面おの 上杉の 強後也 幸ふり 山は

此夜ハ 浮動暗香 中て 氷おの 層層 百

ます 魂うれ くれい ちと 梅と ぬらひ 山は

率情の 勇かり 且ハ 泣本の 花れ 魁

して まるごと 呼吸と どのう ちと 山は

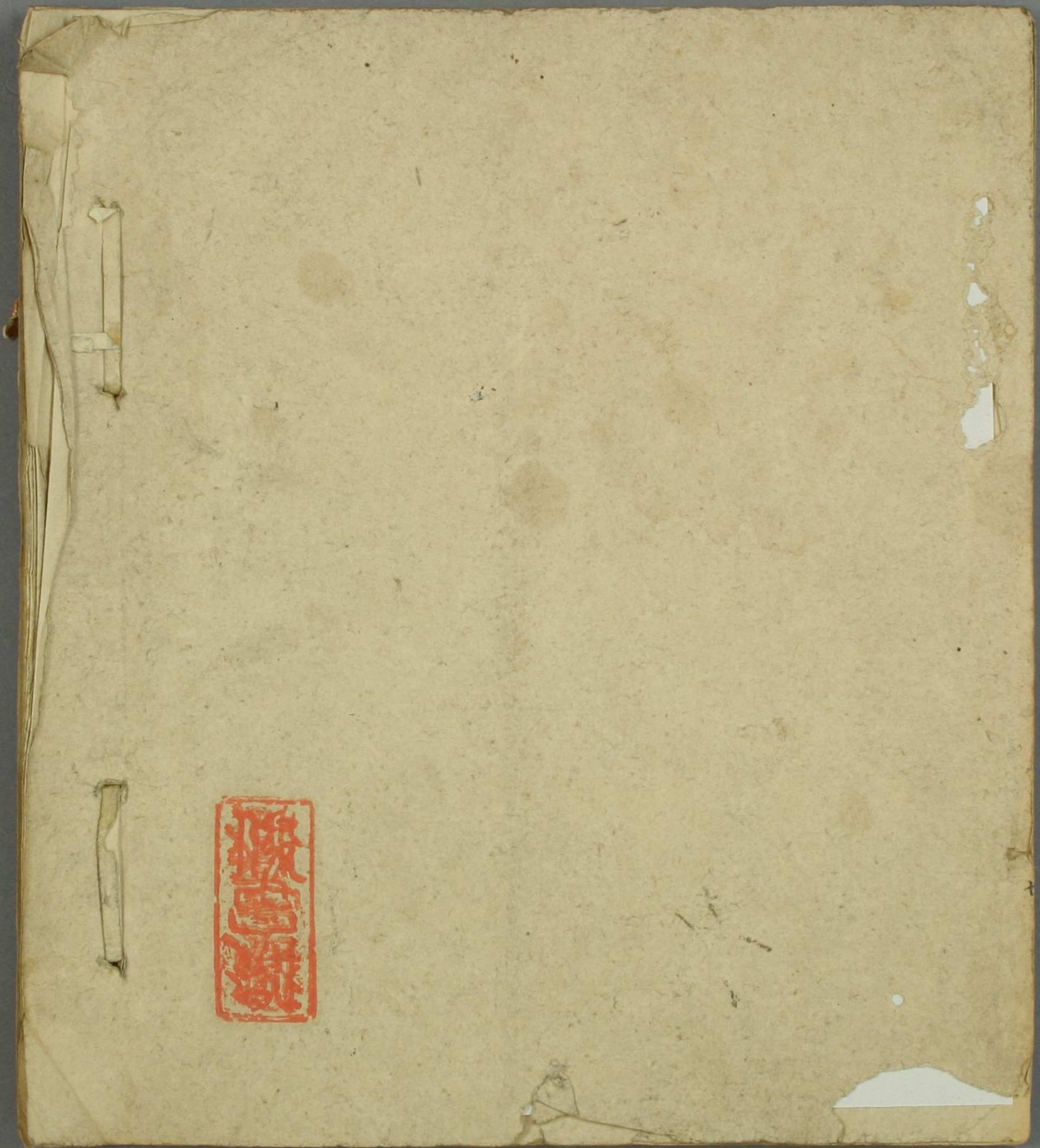
傾城の 笑され 徳を かせ ぬ 山は

りろく 一先 ちと ちと ちと 山は

巴 雀

北越了 謙信 際了 梅れくれ

井筒屋庄兵衛板



藏書